

行政視察報告

総務建設委員会



宮城県石巻市

令和5年10月5日、石巻市役所にて「震災直後から現在までの復興」及び「石巻市議会災害対応指針」について、担当者から順次説明を受け質疑及び意見交換が行われました。その後、震災遺構の視察を行いました。

える人が4人に1人と、心のケアの大切さと難しさを実感しました。

【石巻市議会災害対応指針について】
2013年10月に大規模災害の発生時に、議会及び議員がとるべき基本姿勢として「石巻市議会災害対応指針」が作成されました。その中で、発災し災害対策会議が設置された際、議員及び会派から市側の要望は緊急の場合を除き災害対策会議に提出する」とあるのは、個々の議員が直接窓口に行くことで混乱を招く可能性があるため、指針に明記する必要があると位置付けています。その為、本市でも災害対策の模擬訓練を行う事も視野に入れ、その際には議会事務局や議長のオブザーバー参加を検討し、訓練を通し事前にどのようなにするか検討していく必要性を感じました。

【震災直後から現在までの復興について】
復興事業を進めるに当たり、がれき処理が最初の問題であったことから、本市が作成している「災害廃棄物処理計画」の再検討が必要であり、復興には市民と行政の考えを揃わせていく必要があります。また、令和3年石巻市市民意識調査結果では「復旧・復興は進んでいるか」の問いに、25%が「いいえ」と回答されており、見た目の復旧・復興は進んでいますが心の中では、未だ進んでいないと考



石巻市役所(庁舎内研修)



震災遺構(門脇小学校正面)



震災遺構(門脇小学校本校舎内)

宮城県東松島市

令和5年10月6日、東松島市役所にて「震災後の復興計画プロセス」について、担当者より説明と事前質問の答弁の後、質疑及び意見交換が行われました。その後、震災遺構の視察を行いました。

【震災後の復興計画プロセスについて】

震災被害は、全体の約7割が半壊以上の被害を受けましたが、浸水被害は約6割弱が浸水被害を免れることができ、中でも市役所が免れた事が復旧復興に対し非常に大きかったようです。復興住宅・集合住宅建設に際し、浸水していない地区を宅地に整備し他の被災地に比べ早い段階で街の再建を行うことができました。

特に注目すべき点は、移住に際し抽選方式でなく地域単位での集団移住が話し合いで行われ、コミュニティが崩れることなく移住が行われたことです。日頃から地域の繋がりができていればこそできた事例でありました。本市もコミュニケーション

いの今後を真剣に考える上で良い布石になりました。また、東松島市は「東日本大震災復興記録誌」を後世に残していく意味でも大切な資料となることから作成されていました。



東松島市役所(庁舎内研修)



東名運河(水門)



鳴瀬川の砂洲



KIBOTCHA(キボッチャ)
(被災した野蒜小学校を改装した防災学習施設)



震災遺構(旧野蒜駅プラットホーム)